

ICAN Monthly Report 4



家庭訪問での学びを発表する参加者

学びから「行動」を起こす人に

<スタディツアー・研修事業：担当職員からのレポート>

日本事務局でスタディツアー・研修事業を担当している吉田です。アイキャンでは、2000年より、フィリピンで「危機的状況にある子どもたち」と日本の人々が交流する、スタディツアーを実施しています。今年3月には、4泊5日のツアーを計3回開催し、15歳～67歳まで計32名が参加しました。

スタディツアーでは、マニラの路上の子どもたちやパヤタスごみ処分場周辺地域の住民を訪問し、生活環境や日々の暮らしの様子を五感で感じてもらいます。貧困の現状を目の当たりにした参加者は、その渦中にある人々のことを更に深く知るため、「生活で一番大変なことは？」「政府に何を望む？」といった質問を通して、今日の前にいる人の抱える問題や心情を理解しようとしていました。

しかし、知るだけでは、ただの「貧困観光」に終わってしまいます。今回その流れを変えたのが、ある子どもから参加者に投げかけられた質問でした。「私たちの貧しい生活を知ってどうするの？」全員が答えに戸惑い、ある大学生は、「自分は『知りたい』『学びたい』という思いだけで来てしまい、その後この学びをどう役立てていくか考えていなかった。」と気持ちを吐露しました。

一日のプログラムを終えた夜、その日見聞きして学んだ問題を自分事として考えてもらえるよう、私たちアイキャンの職員も参加者に問いかけます。「ごみの問題、そして路上の子どもが増え続けるという問題をどうしたら解決できると思う？」参加者が自分の考えや思いを出し合い、それぞれの立場で「できること」を考える中で、問題解決に取り組む「主体」となっていくよう後押しします。

帰国前夜、参加者からは、「現状を学びに来たが、『知った』だけでは何も変わらない。問題を知った以上、まだ知らない人を変えていけるよう発信していく。そして、自分が社会を変えるために何ができるのかを考え続ける。」「書き損じハガキを集めるとか、小さなことしか今は思いつかない。でも、小さなことでもやっていくことが大切。できることはすぐ実行に移したい。」などの決意が聞かれました。

国籍も年齢も所属も立場も違う者同士が出会い、互いを知り、経験を共有し、学び合うことで、社会問題を他人事ではなく自分事として捉える。そして、それぞれの立場で解決に向けて行動を起こすきっかけを作る。それがアイキャンのスタディツアーです。これからも、社会問題の解決に向けて「できること」を実践する人を増やしていけるよう、スタディツアーを行っていきます。

認定NPO法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9階 TEL/FAX：052-253-7299 メール：info@ican.or.jp

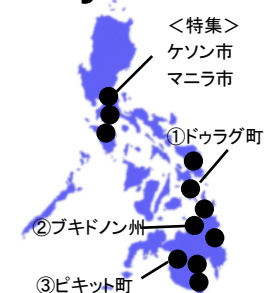
ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

※次回スタディツアーは、2015年8月の予定です。決定次第、ホームページでご案内します。マンスリーパートナーの方には、参加費の割引もあります。



アイキャン日本事務局
吉田文（よしだあや）
～プロフィール～
1984年生まれ。岐阜県出身。大学卒業後、留学関連企業での営業職を経て、2009年に入職。

Project Site



※●はアイキャン活動地
※番号は裏面に対応

①災害の影響を受けた子どもたち(ドゥラグ)



修復された学校で卒業式

台風の被害で校舎が損壊し、建設・修復が完了した14校の小学校で、331名の6年生が卒業式を迎えることができました。ジェネラル・ロハス小学校を卒業したジャスティン君(12歳)は、「アイキャンが学校を修復してくれてとても幸せ。新しいステージで卒業式を迎えることができたのでワクワクした。」と話しました。(3月26、27日)

②先住民の子どもたち(プキドン)



研修で学んだハーブ薬の成果

保健研修を行ってきた先住民ヒガオノンのコミュニティにおいて、評価ミーティングを行いました。32名の住民が参加し、研修の成果について、「育てた葉草の活用によって白斑が消えた」(イレーネさん/34歳)「子どもの症状に合わせて異なるハーブ薬を作り、ケアできるようになった」(ジョイさん/37歳)などの声がありました。(3月10日)

③国際理解教育(ピキット及びフィリピン各地)



日本からの絵手紙がフィリピン各地に

日比の子どもたちの絵手紙交流「Tulay Project」において、日本の小中高生約2,400人が書いた絵手紙がフィリピンに届き、各地で展示会が行われました。ミンダナオ島紛争地の高校では、「この絵を見てると笑顔になれる」(マイマイさん/16歳)、「この絵を描いた子と友達になりたい」(ジョマール君/14歳)などの感想がありました。(3月4～11日)

今月のICANを増やす活動

MY アイキャン事業

3月17日/名古屋

スマイルチケットのポスターを手作りで

チャリティ語学教室スマイルチケットの生徒を募集するポスターを作るため、ボランティアのAさんの声かけで5名の有志が集まりました。色紙を使ったカラフルなポスターは2時間で完成。スマイルチケットの生徒でもあるAさんは「早速大学の掲示板に貼りたい」と話しました。



国際理解教育事業

3月31日/名古屋

路上の子どもの事業担当者が報告

路上の子どもの事業を担当するマニラ事務所岩下による帰国報告会を開催し、18名が参加しました。子どもたちの状況や活動による変化、今後の取り組みなどをお伝えし、参加者からは、「保護施設をはじめとした路上の子どもの活動を応援したい」などの感想を頂きました。



今月のMedia

10のメディアや雑誌に掲載されました!

3月1日 Business Mirror 平和の学校2棟建設決定
 3月2日 まにら新聞 ANA 寄席収益寄付
 3月3日 電気新聞 中部電力ECOポイント活動
 3月6日 NDBCNEWS ピキットの学校建設決定
 3月6日 Global News Asia ピキットの学校建設決定

3月6日 MANILA BULLETIN ピキットの学校建設決定
 3月6日 EAGLENEWS ピキットの学校建設決定
 3月6日 The Manila Times ピキットの学校建設決定
 3月15日 2014年度外務省ODA白書 ピキット平和構築事業
 3月26日 情報誌プライマープログ チャリティコンサート

今月のICAN 名人

© 桜井さん、心温まるメッセージをありがとうございました!

マンスリーパートナー 桜井陽子さん

「小さなことを継続して積み重ねていきたい」

インタビュー:3月31日

私は、以前から国際協力に興味があり、インターネットで団体を探していてアイキャンを見つけました。自分に関わる団体に責任を持つためにも、活動内容やスタッフを知りたいと思い、日本事務局でお話を伺った後、2013年3月にスタディツアーに参加しました。ツアーでは、同じ参加者の大学生が、「友達になった路上の子が、今この瞬間もつらい思いをしていると思うと悲しい」と言っていたことが、すごく印象的で今でも心に残っています。国際協力というと、善意の押し付けになっていないか、などと複雑に考え過ぎてしまうこともあったのですが、彼女の純粋な思いに触れた時、友達が幸せだったら嬉しいし、悲しい思いをしていたら、自分に何ができるかを考え、力になりたいと思うのは自然なことで、もっとシンプルに考えて良いのだと気がきました。私自身も、フィリピンの子どもたちと同じ時間を共有し、触れ合ったことで、彼らが遠い国の子どもたちではなく身近な存在になり、個人としてのつながりを感じることができました。だからこそ、何かできることをしたい、という思いをより自然に持てるようになり、アイキャンならその思いをしっかりとフィリピンの人々の役に立ててくれると感じたので、マンスリーパートナーになりました。何かを変えたいと思った時、私にできることは、小さなことを長期的に積み重ねていくことです。これからもマンスリーパートナーを継続したいと思っています。

